

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

鮫川村まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福島県東白川郡鮫川村

3 地域再生計画の区域

福島県東白川郡鮫川村の全域

4 地域再生計画の目標

本村の人口は、1980 年の 5,537 人をピークに緩やかに減少し、住民基本台帳によると 2025 年 1 月には 2,820 人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2065 年には総人口が 1,442 人となる見込みである。

年齢 3 区分別の人口の推移をみると、年少人口（0～14 歳）は 1980 年の 1,295 人をピークに減少し、2020 年には 316 人まで減少している。一方、老年人口（65 歳以上）は 1980 年の 707 人から 2020 年には 1,221 人まで増加しており、将来的には老年人口が生産年齢人口を追い抜き、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64 歳）についても、1980 年の 3,535 人をピークに減少し、2020 年には 1,512 人まで減少している。

自然動態をみると、出生数は 1975 年の 92 人をピークに減少し、2022 年には 10 人となっている。その一方で、死亡数は 2022 年には 66 人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲56 人（自然減）となっている。

社会動態をみると、1990 年には転入者（150 人）が転出者（183 人）と社会減が（▲33 人）であった。本村の基幹産業である農業の衰退と商工業者の廃業に伴い、雇用の機会が減少したことで、村外への転出者が増加し、2020 年には▲15 人の社会減となっている。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、転出者の増加（社会減）等が原因と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、村民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる。また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り、活性化するまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり
- ・基本目標 2 「つながり」を活かす村づくり
- ・基本目標 3 「こどもがまんなか」を実現する村づくり
- ・基本目標 4 「人が集まる」美しい村づくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2027年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	鮫川村きぎょう・創業支援事業採択数	0 件	5 件	基本目標 1
	スマート農林業機械導入農家数	2 戸	10 戸	
	地域ポイント利用者数	150 人	900 人	
	観光及びインバウンド向けコンテンツの作成数	0 件	3 件	
	草刈り講習会の実施	3 回	3 回	
	有機農業取り組み農家数	0 戸	10 戸	
イ	祭事への支援	0 件	3 件	基本目標 2
	保育園留学実施世帯数	0 世帯	10 世帯	
	地域活性化起業人や地域	3 人	3 人	

	力創造アドバイザーの導入			
	関係人口創出アプリ登録者数	0人	500人	
ウ	こども家庭センターの設置	0箇所	1箇所	基本目標3
	憩いの場づくり	0箇所	1箇所	
	教育ICT学習支援員の導入	1人	3人	
	地域学校協働本部会議	3回	5回	
	村内産食材自給率	36%	50%	
エ	草刈り応援隊員数	23人	70人	基本目標4
	地域通貨を活用したコミュニティ活性化事業	0回	5回	
	買い物弱者などの把握	年4回	年4回	
	教育総合会議の実施	2回	5回	
	公民館利用者数	5,300人	6,000人	
	地域医療検討会	0回	2回	
	デマンド交通の運行	実証事業	本格運行	
	スポーツ施設予約システム利用団体数	0団体	5団体	
	水質検査	年1回	年1回	
	防災アプリ登録者数	100人	1,000人	
	村に愛着を持っている住民	75%	75%	
	地域サロン数	13団体	15団体	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5－2のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

鮫川村まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり事業

イ 「つながり」を活かす村づくり事業

ウ 「こどもがまんなか」を実現する村づくり事業

エ 「人が集まる」美しい村づくり事業

② 事業の内容

ア 地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり事業

これまで積極的に進めてきた鮫川流の「まめな暮らし」を生かした村づくりを今後も継承し、さらに発展させ、村全体を地域ブランドとして確立する村づくり事業

- ・新規産業・創業支援事業の推進
- ・スマート農林業の推進
- ・人材育成DX推進
- ・インフラ整備と観光DX
- ・有資格取得者支援の推進
- ・稼げる村への変換 等

イ 「つながり」を活かす村づくり事業

人と人、人と地域、都市と農村など多様な「つながり」を活かし、人の輪、地域の和を大事にし、みんなで支えあい、生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくり事業

- ・郷土文化の伝承
- ・定住・二地域居住等の推進
- ・官民連携の強化
- ・体験活動の創出とオンライン関係人口の創出・拡大 等

ウ 「こどもがまんなか」を実現する村づくり事業

こどもがいるからこそ、村が継続していけることを再認識し、「こどもがまんなか」の村づくりを進め、こどもたちが鮫川で生まれて、育って良かったと思えるよう、大人たちが常に本気でこどものことを考えて行動する村づくり事業

- ・結婚・出産・子育ての支援
- ・住民丸ごと憩いの場づくりの推進
- ・こどもを中心とする学習・教育環境の充実とD X推進
- ・ふるさとキャリア教育の推進
- ・学校給食の充実とミールキットの製造 等

エ 「人が集まる」美しい村づくり事業

基幹産業である農業を村づくりの中心に捉え、活力あふれる村づくりを進め、本村ならではの地域特性・資源を生かし、多くの人が集まる美しい（美味しい）村づくり事業

- ・地域コミュニティと景観の維持
- ・地域包括ケアシステムの強化
- ・買い物弱者への支援の強化
- ・つなぐ教育を実現する幼保小中連携の推進
- ・生涯学習の推進と環境整備
- ・医療・介護分野D X
- ・多様な暮らし方を支える人間中心のコンパクトで緑豊かな村づくり
- ・まちづくり、スポーツD X
- ・地域資源を生かした個性あふれる地域づくり
- ・防災・減災、国土強靱化の強化等による安全・安心な地域づくり
- ・シビックプライドの醸成
- ・生涯現役の推進 等

※ なお、詳細は鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

200,000 千円（2025 年度～2027 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

毎年度 2 月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本村公式 W E B サイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2025 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2025 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日まで